

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ **学校力向上プラン【学校評価書】**

中学校区(学校群)におけるめざす子ども像	「自ら課題をみつけ 仲間とともに 未来を創り出す子ども」の育成	堺市立神石小学校 校長 森 広 樹
令和6年度 重点目標 学校教育目標「豊かな心を持ち、ともに学び支えあう子の育成」を踏まえ、重点目標を「 学びをつなぐ 」「 心・命をつなぐ 」「 地域をつなぐ 」～ 自ら学び、考え、活用する力の育成 ～ 具体的には ①温かい人間関係の中で、教職員全員で共に子どもを育てる ②一人一人の意欲と能力を伸ばす ③共によりよい「神石小教育」を創造する の3点を基本方針として取り組みます。		

「確かな学び」の現状 児童は全体的に落ち着いて学習に取り組む姿勢ができており、自らを高めようとする姿も見られ、活気のある学校生活を送っています。自ら進んで挨拶する、廊下・階段は歩く、授業中の移動は私語を慎むなど、基本的な生活習慣を維持しながら落ち着いた環境の下、全員が安心して学びあい高めあえる学校環境づくりを行います。基礎学力の定着を目標に、児童の学びの実情にあった個に応じた指導方法の工夫改善や1人1台のタブレットを効果的に活用するICT教育の推進にも取り組みます。児童が自分の考えを分かりやすく伝えることを前提に、異なる考えをもとに自分の考えを導き、よりよい学びを生み出す指導方法の工夫を図り、学びを実生活で活用できる学力（生きる力）の育成をめざします。また、学校群の柱でもある総合的な学習の時間の充実を図り、探求的な学びを推進します。							「豊かな心・健やかな体」の現状 楽しく学校生活を送っている児童が多く、教職員との関係も良好です。低学年から学校教育目標を軸に学校群のめざす子ども像の育成に向けて、「豊かな心」「自己成長力」の育成を図ります。加えて、本校の重要課題である家庭児童支援をはじめ、学校群家庭児童生徒支援への対応については、群推進加配教員を中心に関係諸機関と連携して取り組みます。支援学級児童の在籍数も多い現状を踏まえ、インクルーシブ教育の推進を図り、一人一人の子どもを大切に共に学び共に生きる教育活動に取り組みます。読書活動では、低学年から読書習慣を身につけられるよう学級文庫の充実を図るなど、図書環境を整えます。学校群で共通理解を図り、豊かな心を育む様々な交流を図り、9年間を見据え、つながる教育活動を進めていきます。				
---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組, ★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～10月)	達成状況(年度末)			
								自己評価		学校関係者評価	
確かな学び	主体的に学ぶ子どもの育成	基礎基本の定着と社会で生かすための深い学びへとつなぐ	学習規律と学習習慣(家庭学習を含む)を確立し基礎基本の定着を図る。	アンケートで肯定的な回答が概ね70%をこえる。	学校アンケート	年度末	△ 各学年で家庭学習に取り組んでいるが、定着までには至っていない。	△	保護者は家庭学習の課題数も適切だと評価している(+8P)だとしているが、児童の自己評価は下回る。(-10P)	○	学習意欲を持てるような宿題の出し方を工夫してもらいたい。
			考えを深め、自分の考えを伝え・表現したり他者の意見を聞いたりする場面を取り入れている。	アンケートで肯定的な回答が概ね70%をこえる。	学校アンケート	年度末	○ ベアトークなどを積極的に取り入れ、各学年で取組が進んでいる。	△	保護者「発表機会がある」は+16Pの86p、児童「わかりやすく伝える」は-20Pの50P、「友だちの考えを聞く・取り入れる」は+5Pの75Pであった。教職員は「場面を設けている」79Pだが、授業者の意図が十分子どもに伝わっていない。引き続き、授業改善に取り組み、児童の表現力を伸ばしていく。	○	児童の発表をしっかりと受け止め、児童に自信をもたせるようにしていけばよいと考える。少人数での発表で自信をつけて、多い人数でも発表できるようになってほしい。
			●ICTを活用した授業展開を行い個別最適な学びを推進、だれもが主体的な学びに向かう授業を行っている	アンケートで肯定的な回答が概ね70%をこえる。	学校アンケート	年度末	◎ インフルエンサー派遣制度を積極的に活用するなど、ICTの活用を進めている。	○	「タブレットを使って、学習に取り組んでいる」+6P、「タブレットを使って情報を集めたり考えをまとめたりしている(高学年のみ)」+8P	◎	継続して使っていることで大きな効果が出ている。上手に情報を収集していると考ええる。
			●★学校群の柱「総合的な学習の時間の充実」を図り合同授業や取組を通して探求的な学びを推進する。	研修委員会・群代表者会議での報告	実施状況	年度末	○ 各学年、合同授業や職員連携を行い、小学校での取組を進めている。	○	合同授業や交流授業を通して、「生活・総合的な学習の時間の取組」を進めた。来年度も一層意識していく。	◎	引き続き、取り組んでいただきたい。
	授業改善	子どもをつなぐ授業の確立	学校群を含む研究授業や互見授業を実施し、深い学びへと導く指導方法の工夫改善を行っている。	研修委員会・群代表者会議での報告	実施状況	年度末	○ 学校群で合同研修会を実施したり、各校の研究会に積極的に参加したりするなど、授業力向上の取組を進めている。	◎	・各学年1回の公開授業、年2回1週間の互見授業、初研での研究授業等で、自己研鑽を積んでいる。 ・オンライン交流を含め、小小連携、取組が定着してきた。	◎	引き続き、取り組んでいただきたい。
豊かな心・健やかな体	自尊感情を高める	基本的な生活習慣の確立 安心して通える学校づくり ・一人ひとりのよさを発揮し認め合う集団作り ・図書館の充実と読書環境づくり	自らあいさつする、チャイム着席など時間を守る、進んで清掃を行うなどの指導を継続して行っている。	アンケートで肯定的な回答が概ね70%をこえる。	学校アンケート	年度末	○ 自らあいさつする姿が増えてきたが、時間を守る、清掃については継続した指導が必要である。	△	「あいさつ」肯定率は保護者-3pの67p、児童-5pの65p、教職員-1pの69pと継続しての取り組みが必要である。「チャイム着席」は児童-5pの65p、保護者+1pの71P「清掃活動」は児童+16pの86pだが、教職員はこれら全てで大きくマイナスポイントを示した。来年度は指導方法に改善を加えていく。	○	あいさつは以前に比べて、良くなってきている。特に低学年のあいさつが良くなった。行ってきます、いただきますなど、家庭での協力が不可欠。あいさつの重要性をもっと家庭に周知したらどうか。
			教職員が子どもたちの良いところを積極的にほめる。	アンケートで肯定的な回答が概ね80%をこえる。	学校アンケート	年度末	◎ 先生は子どもの頑張りを評価している。	◎	保護者79p、児童+3pの83p、と高く、教職員は児童の頑張りをしっかりと評価しているといえる。	◎	引き続き、児童の頑張りをしっかりと評価してやってほしい。
			子どもに生命の尊さや社会のルールを守る大切さを教えている。	アンケートで肯定的な回答が概ね80%をこえる。	学校アンケート	年度末	◎ 道徳や学級指導を通して、交通安全を含め命の大切さを伝えている。	○	保護者「社会のルールの大切さを教えている」-3pの77p、「望ましい人間関係、生命の尊さを伝えている」-15Pの65P、児童+9pの89p、教職員90pと保護者の意識との乖離がある。保護者の協力も得ながら、児童が理解できるように指導していく。	◎	様々な機会を通して、子どもたちに命の重要性や交通安全については、おしえてやってほしい。
			児童が自ら進んで読書をする環境づくりをしている。	アンケートで肯定的な回答が概ね70%をこえる。	学校アンケート	年度末	◎ 低学年から学校司書や司書教諭による読み聞かせや授業を行い、蔵書数の増加を図るなど、環境整備に努めている。	△	保護者-8pの62p、児童「自ら進んで読書」76p、教職員-8pの62pの結果から、教員の意識の向上と図書指導の強化、図書委員会の啓発等も含め図書室の利用率をあげる。	○	読書は重要である。朝読書を活発化し、今以上に子どもたちに本を読ませてやってほしい。
	児童生徒理解	児童生徒指導の充実 ・インクルーシブ教育の推進で共に学ぶ共に生きる意識の向上	教職員は子どもの話をよく聞き、相談にのっている。	アンケートで肯定的な回答が概ね80%をこえる。	学校アンケート	年度末	◎ 子どもたちの話をていねいに聞き、課題に対して、早期対応・解決を図っている。	◎	児童87p、保護者-7pの63p、教職員100pの結果から、今以上に保護者への理解を得られる報告・連絡・相談に努める。	◎	継続して、子どもたちの話に耳を傾け、問題の対応にあたってほしい。
			●★支援学級児童だけでなくすべての子どもに個に応じた指導するための情報共有と研修を進めている。	必要とする児童の状況	年度末反省	年度末	◎ 特別支援コーディネーターを中心に、通常の学級で支援を要する児童への手立てを構築するとともに研修を進めている。	◎	支援学級・通常の学級ともに特別支援教育コーディネーターを中心に個に応じた手立てや支援を行い、落ち着いて学習に向かう姿勢がみられるなどの成果が表れている。	◎	支援学級が厳しい状況というのは参観で分かった。大変だと思うが、引き続き取り組んでもらいたい。
	安心安全な学校づくり	危機管理 ・いじめの未然防止・早期発見・早期解決に向けた取組 ・安心安全な教育環境づくり	いじめの解決に向けた迅速な対応に取り組んでいる。	いじめの発見と対応状況	問題行動調査	年度末	○ 会議で情報共有を行い、全職員がいじめ未然防止を念頭に取組を進めている。	○	教職員肯定率97pだが、いじめ事案が起きた。いじめのない学校への取組を継続して行い、早期発見・対応に努めていく。	◎	事案対応だけでなく、いじめが起きないように未然防止に努めてもらいたい。
			毎月の安全点検や避難訓練、緊急時の集団下校指導を実施し、安心安全な教育環境を整えている。	アンケートで肯定的な回答が概ね80%をこえる。	学校アンケート	年度末	◎ 毎月安全点検を行い、保健主事が用務担当職員と連携し、早期対応している。	◎	保護者「災害対策・登下校」肯定率90p、児童「災害対策」93p、「登下校中の対策」99p、教職員100P。来年度も一層危機管理意識を高め、指導方法を工夫改善していく。	◎	校外への避難訓練(津波想定)を実施したことは評価できる。今後も危機管理意識をもって取り組んでいただきたい。
開かれた学校	地域連携	保護者・地域との連携・情報発信	保護者はPTA等の活動に参加するなど子どもの安全・相互理解と連携に努めている。	アンケートで肯定的な回答が概ね70%をこえる。	学校アンケート	年度末	○ 毎朝の当番活動には個人差があるが、学校には協力的に取り組んでいる。	△	肯定率-25pと理解が得られていない。引き続きPTA活動の啓発に努め、少しずつでも参加率を上げていきたい。	△	PTA活動の意義の一層の周知を図り、引き続き、活動の活性化を図ることが必要。
			ホームページの充実で、教育内容や児童の様子、学校からの連絡をわかりやすく伝えている。	アンケートで肯定的な回答が概ね70%をこえる。	学校アンケート	年度末	◎ アクセス数は行事以外は横ばい傾向であるが、日常的に更新している。	◎	肯定率+10pで、閲覧は定着してきているが大幅な伸びは見られない。発信内容など工夫を加えたい。	◎	閲覧は定着しているので、より興味をもてるHPの作成に努めてもらいたい。

校長より(年度末) 教育活動が十分保護者に伝わっていないことを感じる。ホームページや保護者連絡等を通じて、一層の周知に努めたい。基礎学力の向上は大きな課題として挙げられる。保護者の協力を得て、家庭学習の充実を図り、学習の基礎基本を定着させ、学力向上へつなげたい。あいさつは、以前に比べて声も大きく明るくなったが、自分から進んで行うまでには至っていない。引き続き、指導を継続し、学校だけでなく、家庭・地域でも元気なあいさつができる子どもを育てていきたい。	学校関係者評価者から(年度末) ・教育活動の意図を上手く発信することで、今以上に家庭の信頼を深め、学校と家庭と連携して、教育することが必要。 ・学力の向上は必須だが、家庭学習なくしては達成できない。家庭の協力を得て、学力向上を図ってほしい。 ・あいさつは以前にくらべると、よくなっていると感じる。あいさつの意義を子どもに理解させ、自ら元気なあいさつができる子どもを育てる取り組みを今後も続けてほしい。
---	---